

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)長岡京市勝竜寺PJ 新築工事	階数	地上7F
建設地	京都府長岡京市勝竜寺401-1	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	1,880 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2029年1月 予定	評価の実施日	2025年9月5日
敷地面積	18,481 m ²	作成者	盛本しほり
建築面積	7,838 m ²	確認日	2025年9月5日
延床面積	38,239 m ²	確認者	中田達也

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.2</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEE+で表示しています。</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Qのスコア = 3.1		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.0</p>
LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.6</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
総合	環境と負荷軽減に配慮し、緑地を確保し緑量感のある計画を行っている。	
その他	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
室内環境の向上を目指し、F★★★★建材を使用している。	劣化対策等級3など耐久性に優れた建物としている。	敷地境界沿いに緑化を行い、周囲への景観に配慮してる。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4以上を取得することで建物の負荷抑制に努めている。	有害物質を含まない建材種類の採用を重視している。	建物利用者の為の適切な駐車駐輪スペースを確保し、交通負荷を抑制している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)長岡京市勝竜寺PJ 新築工事	階数	地上7F
建設地	京都府長岡京市勝竜寺401-1	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	1,880 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2029年1月 予定	評価の実施日	2025年9月5日
敷地面積	18,481 m ²	作成者	盛本しほり
建築面積	7,838 m ²	確認日	2025年9月5日
延床面積	38,239 m ²	確認者	中田達也

外観/バース等
 雨を誘り付けるときは
 シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価結果 (レーダーチャート)
<p>BEE = 1.2</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境品質 G</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値</p> <p>②建築物の取組み</p> <p>③上記+②以外の</p> <p>④上記+</p> <p>(kg-CO₂e/年・m²)</p> <p>このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEE+で表示しています。</p>	<p>3(保健) N/A 4(教育) N/A 5(ジェンダー) N/A 6(水・衛生) N/A 7(エネルギー) N/A 8(経済・雇用) N/A 9(イノベーション) N/A 11(都市) N/A 12(生産・消費) N/A 13(気候変動) N/A 15(陸上資源) N/A 17(実施手段) N/A</p> <p>*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Qのスコア = 3.1		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.0</p>

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.6</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>環境と負荷軽減に配慮し、緑地を確保し緑量感のある計画を行っている。</p>	<p>その他</p> <p>特になし</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>室内環境の向上を目指し、F☆☆☆☆建材を使用している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>劣化対策等級3など耐久性に優れた建物としている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4以上を取得することで建物の負荷抑制に努めている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>有害物質を含まない建材種類の採用を重視している。</p>
<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地境界沿いに緑地を行い、周囲への景観に配慮する。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建物利用者のための適切な駐車スペースを確保し、交通負荷を抑制している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される